



公益財団法人日本国際医学協会 概要

【沿革】

この法人は、初代理事長 故 石橋長英が、医師卒後教育の推進を目的に大正14年（1925年）3月に開講した医学談話会を起源とします。

【目的】

この法人は、我が国の医療・保健・福祉の向上発展のため、最新の医学、医療及び公衆衛生に関する研究成果及び最新技術の普及啓発を行うとともに、海外との学術交流により国際相互理解の促進に寄与することを目的としています。

【事業内容】

上記目的を達成するための事業は以下の通りです。

- (1) 医学・医療関係者並びに一般市民を対象とする医学・薬学を中心とする講演会及びシンポジウムの開催事業。
- (2) 医学・薬学に関する国内外の調査、資料収集と分析並びに成果の刊行事業
- (3) 医学・医療に関する国内外の研究者及び機関との連携と学術交流事業
- (4) 研究者に対する研究及び成果発表の奨励事業
- (5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

【概要】

公益財団法人日本国際医学協会の主要な事業に医師生涯教育と国際医学交流があります。当財団の起源である医学談話会は、医師生涯教育の先駆けで、大正14年3月10日に発足し、昭和30年9月以降は国際治療談話会例会の名のもと既に400回以上開催されています。本例会は臨床各科をはじめ、基礎医学、薬学、歯学に至るまで、メインテーマのもと各専門家にそれぞれの領域の最新知見を講演していただきます。創立者石橋長英は、当時すでに専門別に細分化されつつある医学を統合する必要性を感じ、基礎医学と臨床医学の縦の係と、臨床各科の横の係の双方から学習することを目的としました。さ

らに、医療に携わる人は病める人と向き合う上で、医歯薬以外の幅広い見識が求められるという創立者の理念に基づいて、昭和43年（第91回例会）から始まった医歯薬界以外の名士による「感想」は、当財団独自の講演であり全人的医療の推進に役立っています。現代はますますこれらの理念が重要視され、国際治療談話会は医師のみならず医療関係者に対して、生涯にわたる総合医学教育の場として定着しています。本例会は、1, 3, 5, 7, 9月の年5回開催しています。

また、国際治療談話会総会は昭和36年11月より毎年1回11月に開催され、医学を通じた国際交流に寄与するため、随時海外の医学者を招待し最新知見を取り上げます。総会においても例会同様に、医学講演に加えて「感想」があり、講演会終了後の懇親会は在日外国人医師や大使館関係者なども参加され、国際医学交流並びに会員相互の親睦、情報交換の場となります。また、平成14年（第42回総会）からは創立者石橋長英の名を冠し、石橋記念講演を開催しています。これは、主に日本で活躍中の海外からの若手医学研究者を奨励する医学講演であり、国際医学交流の普及に貢献しています。

例会並びに総会の講演抄録は当財団機関紙 International Medical News に和英両文で掲載され、全会員および医学関連機関、国立国会図書館などに配布され、また当財団ホームページから随時、閲覧・ダウンロードも可能です。International Medical News は日本の医学医療の現状を紹介し、これまで450号以上を発行しています。

医師生涯教育に並んで当財団の主要な事業に国際医学交流があります。国際医学交流は伝統的にドイツとの間で盛んに行われ、過去に多くの医師や研究者が当財団を通じて交流を果たしました。また、これらの交流は市民まで広がり、栃木県の下野（旧 石橋町）とディーツヘルツタール（旧 シュタインブリュッケン）、群馬県の草津とビーティヒハイムビッシンゲンのように市姉妹都市締結にまで至った歴史があります。他にもレムゴ、カールスルーエ、フライブルクなど多くの市町村やドイツの主要な大学・医療機関と医学交流の歴史があり、国際親善の推進を図ってきました。また、心臓の刺激伝導系を発見した日独両国の医学研究者の業績を讃えた田原・アショフシンポジウムと当財団は協力関係にあり、隔年で日独交互に開催されるシンポジウムに合わせて、日独医学交流を推進する講演会や訪独旅行などを随時計画しています。

なお、当協会は昭和14年に日独医学協会の名のもと財団法人として認可され、昭和27年に現在の日本国際医学協会に改称いたしました。そして、平成23年11月に公益財団法人として認定され、現在に至ります。